

人間の安全保障と東日本大震災を考える

—「保護」と「能力強化」(Protect and Empowerment)を—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

皆さんの中には読売新聞を取っている方が多くいらっしゃると思います。その栃木版に「とちぎ寸言」というコラム欄があります。私は3～4か月に1度ぐらい、そこにコラムを書かせていただいております。今日は、今週の水曜日6月8日に掲載された内容について少しお話をさせていただきたいと思います。

2. 人間の安全保障と東日本大震災を考える—「保護」と「能力強化」(Protect and Empowerment)を—

(1)大震災が起きたときのために栃木県や各市町は震災対策をしていますが、もし今後もう一度震災が起きた場合にはどのようにしたらよいかというのがテーマでした。大震災はまだ終わっていないというのが私の考えです。3月11日の東日本大震災と津波、原発事故は人々の生活や経済活動に大きな影響を与えています。皆さんご承知かと思いますが、マグニチュード9.1のスマトラ沖地震の3か月後に、マグニチュード8.4の大余震がありました。ちょっと言いにくいですが、もし同じようなかたちですと、東日本大震災から3か月ぐらい経ちますので危ない時期に入っているという意見もあります。また、東日本大震災に連動した大余震があるとか、富士山を含む火山の噴火の可能性が極めて大きいと言う方も多いです。

(2)このような意見もあり、今も原発事故の影響で発生している非常に大きな問題と、これから発生するであろう大余震の問題、この2つの大きな課題に栃木県と各市町はどのように取り組んだらよいかということ、これが今日のテーマです。これは本当に大変なテーマですので、ぜひ皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

(3)ものごとを考えるときにはどのように考えたらよいかということがあります。国家の安全保障を補うものとして、人間の安全保障という考えがあります。これは、一人ひとりの人間の尊厳に着目をして、一人ひとりの安全保障を考えようという考え方です。この度の大規模な自然災害と原発事故では、人間の安全保障の考え方を使ってものごとを考えるとよいのではないかと私は考えます。

- (4)これには 2 つの中味があります。1 つは、困難に直面している一人ひとりの人間の生命と安全を守るための「保護」、プロテクトです。もう 1 つは、生活を立て直して自立を支援するための「能力強化」、エンパワーメントです。この保護と能力強化を中心に大震災と原発事故、そして、これから起こるかもしれない余震や火山の噴火に備えたらよいのではないかと思います。
- (5)ところで、栃木県内には使っていない家や学校を含む公共施設がたくさんあります。また、民間の施設も本当に山ほどあります。ですから、栃木県知事や各市長、各町長さんに強烈なリーダーシップを発揮していただき、また、各関係者の協力をいただきながら、空いている不動産の現状調査を早急に行っていただきたいと思います。そして、必要なときにはいつでも借り上げなどができるしくみを整えていただきたいと思います。
- (6)また、災害時には観光地への宿泊客が激減します。観光地には誰もいないという状況になってしまう。このことが今回よくわかりました。ですから、被災者の方々には県内の宿泊施設、特に観光地にとりあえず避難していただく。そして、準備が整い次第、遊休不動産、つまり空いている家や空いている施設に入居を勧めれば、何億円、何十億円もの莫大な費用がかかる仮設住宅をわざわざ造る必要がなくなります。このように私は思います。この 1、2 か月間、観光地の方々は非常に大変な思いをしておりました。ですから、観光地の宿泊施設に入ってください、準備が整い次第、空いている家や施設に入ってくださいというのが私の考えであります。
- (7)被災地の支援や復興には、多くの人手が必要です。ですから、被災地の方々から優先的に臨時の公務員になっていただいたり、臨時の自衛隊員になっていただいたりして活躍していただく。被災者の方々が一番大変なのはとりあえずの収入がないことです。そのようなかたちで収入を得ていただきながら、次の職業に就けるだけの能力強化や職業訓練、新しい仕事をどのようにしたらよいのかについて考えるきっかけを、そこで作っていただければと思います。
- (8)とりあえずは東北や茨城などの被災地支援の最前線基地は栃木県と栃木県内の市町ですので活用していただきたい。さらには、予想される首都圏の大地震の発生時には、もしかしたら 100 万人単位の被災者が関東地区などに散らばると思われま。その中の何万人かに栃木県に来ていただいて過ごしていただく。各市町にも何千人単位、1 万人単位で被災者の方が来る可能性があります。そのような方々を保護する避難所として、栃木県の各市町が準備をするとよいと思います。
- (9)災害は必ず収まります。その収まった後に被災者の生活をどのように立て直したらよいかという自立支援のための能力強化の拠点として、栃木県の果たすべき役割は非常に大きいと思います。また、栃木県内の市町の役割も非常に大きいと思います。これらのことを痛切に感じます。大切なのはこれからです。県や市町が連携を取り、また、民間も加わって心をつなげて、今の危機と次の危機に備えてぬかりなく準備を整えたいと思います。

3. おわりに

(1)これが、6月8日の読売新聞栃木版の「とちぎ寸言」に私が書かせていただいたコラムの内容です。なかなか難しいテーマではありますが、かなり高い確率で余震が来ると言われていますので、ぜひ皆さんもどのように考えたらよいかについて、今から備えていただきたいと思います。このようなときですので暗い話になってしまいましたが、ぜひ準備だけはしたほうがよいと思います。

(2)地震の測定については今までも行っていましたが、いつ・どのように地震が起こるのかという地震の予知の研究はほとんどされていなかったと言われていています。ですから、今回だけはよく準備をして、新たな震災に対して備えたほうがよいと思います。

(3)皆さんはどのようにお考えでしょうか。ぜひ皆さんのお考えもお聞かせいただければ有り難いです。

— 2012年2月3日改訂 —